

## 整形外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究にかんする倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。また、当研究に情報を利用することをご理解いただけない場合につきましても、以下の「問い合わせ先」へご連絡ください。

〔研究課題名〕2方向からの超音波ガイド下ハイドロリリースを用いた新規前腕持続末梢神経ブロック手技の成績

〔研究機関〕帯広厚生病院整形外科

〔研究責任者〕本宮真（帯広厚生病院第2整形外科主任部長）

〔研究の目的〕この研究は、手や腕のけがをされた患者さんに対する手術後の痛みを和らげ、よりスムーズにリハビリを進めることを目的としています。手術後のリハビリは、良好な回復に非常に重要です。しかし、痛みのためにリハビリが進まず、関節が固くなったり、癒着が起きたりして、手や腕の動きが悪くなってしまうことがあります。また、痛みが強いと気持ちが落ち込み、精神的な影響を受けることもあります。ですので、痛みをうまくコントロールすることが手術後の治療にとって非常に重要です。これまで、持続的に痛みを和らげる方法として、持続末梢神経ブロックが使われてきましたが、痛みを抑えつつも動きが制限されないようにするのは難しく、手術後のリハビリに広く利用されていませんでした。しかし、近年、新しい方法である「前腕持続末梢神経ブロック（CPNB）」が、筋肉の動きを保ちながら痛みをしっかりと管理することができ、リハビリに役立つとされています。当院では、最新の超音波機器を使い、神経の位置をより正確に捉え、2方向からの超音波ガイドで神経の周りにカテーテルを低侵襲で安全に留置する技術を開発しました。この新しい方法で、痛みを効果的に抑えながらリハビリをスムーズに進めることができると考えています。本研究の目的は、この新しい方法による治療効果を確認することです。

〔研究の方法〕

●対象となる患者さん：2020年10月から2023年9月までに当院整形外科で持続末梢神経ブロックを使用して術後リハビリテーションを行った患者様。

●利用するカルテ情報

- ①年齢、性別、病歴情報
- ②手指可動域や疼痛の情報
- ③手指機能評価

〔個人情報の取り扱い〕

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌等で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

〔問い合わせ先〕

北海道帯広市西14条南10丁目1番地  
JA北海道厚生連 帯広厚生病院  
整形外科 担当医師 本宮真  
電話 0155-65-0101